

第5回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議 議事要旨

日時：平成30年10月19日（金）15:00～17:00

場所：富山市役所 802 会議室

出席委員：（順不同）

宮田 伸朗	富山短期大学 学長 （議長）
石倉 慎也	株式会社日本政策投資銀行富山事務所 所長
井上かおり	全日本空輸株式会社富山支店 支店長
舘 良一	株式会社シー・エー・ピー 代表取締役会長
中野 時夫	連合富山・富山地域協議会 議長
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授
中村 和之	富山大学経済学部 教授
原 保広	富山公共職業安定所 所長
松井 竹史	富山市薬業推進協会 会長
松田 智生	株式会社三菱総合研究所 チーフプロデューサー
翠田 章男	富山商工会議所 副会頭

要旨のポイント

- ・ 人口だけでなく、就業者の数も重要。連携中枢都市圏域全体として就業の問題を捉えてほしい。
- ・ **SDGs** に富山市としてどう取り組んで、どう成果が出たのかをしっかりと市民に説明してほしい。
- ・ シビックプライド事業の目標設定が少し甘い。富山市のアイデンティティや富山市に住みたいといった意識的な捉え方が必要。
- ・ 市内にどういった企業があって、地域としてどういう強みがあり、社会にどのように役に立っているのかということを含めた、職業観を小中学生の頃から学ばせることが必要。
- ・ 「企業立地拡充助成金」の交付要件にある「新規雇用が10人以上で富山市民」を富山広域連携中枢都市圏の取り組みとして、圏域内の住民に広げるといったことを検討してもらえないか。
- ・ コスト削減等に非常に効果があることから、**PPP** の活用をさらに進めてもらいたい。
- ・ 公共施設のファシリティマネジメントの推進について、富山市のみならず、連携中枢都市圏においても、広域的な観点で捉えてほしい。
- ・ 富山市の良さは来てみないと分からない部分が多いことから、どう発信していくかが課題。いい施設、機能があることをしっかり外の人に **PR** する必要がある。
- ・ **KPI** で達成した項目と上手くいっていない項目、それぞれの理由をしっかりと分析してほしい。また、市の取り組みをもっと広報し、市民へ情報提供することが必要。
- ・ 人口が減少する日本で、移住者や交流人口のパイの奪い合いをすることは不毛で、都市と地方で人

口や人材を共有するシェアリングエコノミーが必要。「逆参勤交代」のトライアルを富山市で行いたい。

- ・ 事業所単位でみた従業員者について、経済センサスの統計値では伸びていないが、雇用保険の加入者で見ると増えている（特に女性と高齢者）ので、数字の取り方を工夫する余地がある。また、雇用関連の KPI が無料相談件数となっているが、求職者が少なく相談者が減っていることから、紹介（マッチング）件数に変更してはどうか。

議事内容：

1. 開会

2. 資料説明

富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）について

富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況について

○資料1・2にもとづき「富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂（案）」、資料3にもとづき「富山広域連携中枢都市圏について」、資料4にもとづき「富山市 SDGs 未来都市について」、資料5・6にもとづき「富山市まち・ひと・しごと総合戦略の取組状況」を事務局より説明した。

3. 意見交換

委員

- ・ 資料2のP19にある「シビックプライドの醸成事業」の内容とその KPI とはどういったものなのか。

事務局（企画管理部）

- AMAZING TOYAMA をキャッチフレーズとし、市民が富山市に対して愛着や誇りを持ってもらうための事業、例えば、AMAZING TOYAMA 写真部やフォトフェスティバル、奥田塾等への参加者数を KPI として設定している。

委員

- ・ 概ね順調に推移しているようだが、長期的な取り組みが求められると思うので、目配りをしてほしい。人口もそうだが、就業者の数も重要になってくる。富山市は多くの人を周辺自治体から受け入れていると思うが、連携中枢都市圏域全体として就業の問題を捉えていってほしい。特に医療、福祉分野で人材需要がかなりあるようだが、一方で、製造業、サービス業でも人材を十分に確保していかなければいけない。
- ・ SDGs はこれからの潮流だと思うが、富山市としてどう取り組んで、どう成果が出たのかをしっかりと市民に説明していってほしい。広い目標体系になっているが、そういったことに配慮できない企業や、配慮しにくい地域に立地する企業には、厳しくその責任を迫及されるところがある。ここを上手く活かしていく事で、富山市の経済活動にプラスになるのではないかと。市としてのアピールポイ

ントをすっきりとした形でまとめてもらえればいいと思う。

委員

- ・ SDGs 未来都市の取り組みと、総合戦略の関係性はどうか捉えたらいいのか。

事務局（政策監）

- SDGs は 2030 年までのゴールが設定されているわけだが、いわゆるバックキャストで、何年までにどうすればいいかといった計画的なスキームを立てていくのが非常に重要で、また、エコノミー、ソーシャル、ガバナンスといった 3 つのファクターを一体的に展開していくことが、今までにないダイナミズムだと思っている。

コンパクトシティという考え方は、誘導地域だけでなく、バイオマスを活用した取り組みや再生エネルギーの活用等、地域としてどうエネルギービジョンを作っていくかといったことを健康寿命の延伸も含め、包括的に展開しているものである。この 9 月補正で予算措置したところであり、正に今から事業展開していく。市民の方に対しては、年末ぐらいに具体的にお示できると考えている。

委員

- ・ 全体的に順調に推移しているということだが、農業関係については、達成していない部分が多く、その背景は分析しているのか。

事務局（農林水産部）

- まず、えごまの 6 次産業化については、原材料が十分に収穫できていない現状がある。SDGs 関連事業の中でのスマート農業の取り組み等も交えながら、生産拡大に繋げていきたい。
- 営農サポートセンターにて実施している農業サポーターの育成については、このまま順調に行けば目標達成できると考えている。
- 薬用植物については、目標設定時には健康ブームもあり、中山間地において盛んに栽培されていたが、ブームも落ち着いてきたことから、栽培面積が落ち着いてきている。この目標値については、達成が難しい状況だが、様々な支援を実施していきたい。

事務局（政策監）

- えごまについては、大沢野の塩地区で大規模圃場整備をしたところであり、栽培面積としては大きいですが、元々耕作放棄地だったことから、地力が弱く十分に栽培できていない。まずはそこを上げていくことに取り組んでいきたい。また、出口戦略として、健康への効用といったエビデンスをはっきりさせ、商品としての需要を上げていきたい。

委員

- ・ えごまはいかに美味しく食べられるかといったレシピがあればいいと思う。

事務局（政策監）

- 市内のレストラン等にえごまの葉や実を無償で提供しており、駅前の居酒屋や市役所の食堂などで独自メニュー化が進むなど、徐々にだが PR 効果が出ている。

委員

- ・ シビックプライド事業の目標設定が少し甘いように感じる。富山市のアイデンティティや富山市に住みたいといった意識的な捉え方が必要なのではないか。この測定方法だと表面的には分かりやすいが、本当に市民のシビックプライドが高まっているとは言えない。意識調査のようなことはしているのか。

事務局（企画管理部）

- 市民の富山市に対する誇りや愛着をどう捉えるかは難しいところがある。昨年度、市民課で転入された方に対して、アンケートを取ったところ、当時、「HOMING」といった冊子を作って配布していたことがあり、それを見て富山に帰ろう考えたといった結果もあった。様々な取り組みの中で、富山市の良い所を発信していこうと積極的に参画してくれた人も指標の一つとなると考えているが、もっと分かりやすい指標の設定も検討していきたい。

委員

- ・ ふるさと教育や生涯学習といったことにも関係してくると思う。プライドと言った定性的なものを定量化するのは難しいと思うが、心で感じたことがどういう行動に移ったかということ計るしかないと思うので、工夫してほしい。

委員

- ・ 企業としては、現在、採用に非常に苦労している。教育の場で、市内にどういった企業があって、地域としてどういう強みがあり、社会にどのように役に立っているのかということを含めた、職業観を学ぶことが必要と考えている。小中学生のころからの意識改革が進めば、それがシビックプライドにもつながる。先生方の職業観の持ち方も重要だ。

事務局（政策監）

- 例えば、薬産業は非常に将来性の高い業種なのだが、今の小中学生は、どうしても売薬のイメージが強く、未来のある分野だということがいまひとつ理解されていない現状がある中で、教育委員会では、薬について過去、現在、未来を盛り込んだ社会科の副読本を作っている。やはり小中学生の時点で、そういった教育をすることは重要だと考えているので、このような取り組みを横展開していきたい。

委員

- ・ 進学で県外へ出て行ってしまった後から、いくらこういう会社があると伝えても、どうしても大企業と比べてしまって、意識の中に残らない。やはり小さい頃から伝えていくことが重要だと思う。

委員

- ・ 薬関連企業では、小学生に実際の会社に来て、目で見て体験してもらっている。薬業に限らず、採用に困っている業界や、これから伸びていくという業界も取り組めば効果が出ると思う。

委員

- ・ 商工会議所として産業観光に熱心に取り組んでいるようだが、具体的にどのようなものか。

委員

- ・ 「産業観光図鑑」というものを、8つの商工会議所が連携して発刊している。かなりユニークな取り組みということで注目されており、富山の観光として一つの柱になるものと考えている。
- ・ 企業側は人材確保に非常に苦慮しており、新工場を作ったのはいいが、そこで働く社員を確保できない。その中で、富山市で「企業立地拡充助成金」という制度を設けており、積極的に活用していきたいが、交付要件として、「新規雇用が10人以上で富山市民」といったものがある。そこで、富山広域連携中枢都市圏の取り組みとして、例えば、この要件を圏域内の住民に広げるといったことを検討してもらえないか。

事務局（企画管理部）

- 圏域内から富山市へ通勤通学している方も多く、有効かと思われるが、反面、富山市に工場の集積が進んでしまうという課題もあるため、他の連携市町村の意見も聞きながら検討していきたい。

委員

- ・ PPPは官民連携の観点で中心市街地の学校跡地において活用しているが、これに限らず、コスト削減等に非常に効果があることから、PPPの活用をさらに進めてもらいたい。
- ・ 公共施設のファシリティマネジメントの推進で、今後様々な施設の更新、統廃合が進んでいくにあたり、官民連携し、民のアイデアや資金を十分に使って加速して進めていってもらいたい。また富山市のみならず、連携中枢都市圏においても、広域的な観点で捉えていってほしい。
- ・ SDGsについては金融機関にとっても非常に重要と認識しており、環境的、社会的に企業統治がしっかりしているところにお金を出していこうという流れができつつある。公費を減らし、有利な民間資金を集めるためにも、コンパクトなまちづくりを進めていくことで、SDGs未来都市を実現し、アピールしてもらいたい。

事務局（企画管理部）

- 広域連携中枢都市圏に公共施設のマネジメントを広げることに関しては、デリケートな問題なので、現在はまだそこまで踏み込めていないが、時間をかけて議論していきたい。

委員

- ・ 富山は住めば住むほど魅力的だと感じている。富山市が進めているまちづくりは素晴らしく、来る人間がみんなファンになるが、来てみないと分からない部分が多いことから、どう発信していくかが課題と感じている。
- ・ 空き家情報バンクの登録が進んでいないということだが、集合住宅のリノベーションや中古住宅の活用についての助成制度があったらいいと思う。
- ・ 首都圏の女性に話を聞くと、実際、20代、30代は移住後の子育て等に関して現実的なところで悩んでいる。まちなか総合ケアセンター等、いい施設、機能があることをしっかり外の人にPRする必要がある。まだまだ移住者を富山に引っ張ってこられると感じている。
- ・ 金沢市の外国人観光客はすごいが、富山市にも岩瀬の街並みがある。ここをもう一段階ブラッシュアップする必要があると思う。

委員

- ・ KPIで達成した項目と上手くいっていない項目がある。それぞれの理由をしっかりと分析してほしい。また、市の取り組みをもっと広報し、市民へ情報提供することが必要だ。
- ・ 富山の名産というものを、北陸で有名だとか、日本一だとか、世界でも有数のものだと思い切って言うことが大事だと思う。

事務局（企画管理部）

- KPIにも様々な種類がある。達成しやすいものもあれば、複雑なKPIで達成しにくいものもあるので、それぞれをしっかりと分析していきたいと考えている。

4. 資料説明

(3) 国の地方創生関連交付金を活用した取り組みについて

○資料7・8にもとづき「国の地方創生関連交付金を活用した取り組みについて」事務局より説明した。

5. 意見交換

委員

- ・ 昨年のこの会議の場で逆参勤交代構想について提案した。首都圏で働くビジネスマンが期間限定で地方においてリモートワークするものである。
- ・ 人口が減少する日本で、移住者や交流人口のパイの奪い合いをすることは不毛だと思い始めており、都市と地方で人口や人材を共有するシェアリングエコノミーが必要だ。
- ・ 今年度、南阿蘇村でトライアル逆参勤交代を実施した。首都圏で働くビジネスマン10名が3泊4日

で滞在し、地域の魅力や課題の発見、困っている地元事業者の課題（人手不足・販路開拓・事業承継等）の把握をした。そして、受講生と村役場が討議をし、主体的に何ができるかを考えてもらい、最終日に発表した。また、地元の中学3年生に向けて、よそ者が南阿蘇の魅力を語ることで、子どもたちを勇気付けた。

- ・ さらに去年、内閣官房と自民党の政調会でこの話しをする機会があり、結果、官邸が出す提案書の中に「逆参勤交代」という言葉が盛り込まれた。
- ・ 富山でこのトライアルを行いたい。

委員

- ・ 事業所単位でみた従業員者数について、雇用保険の加入者で見ると、H27年度は164,000人、H28年度は166,000人、H29年度は172,000人、今年度は7月現在で、174,000人というようにどんどん増えている。特に女性と高齢者が増えており、さらにダブルワークの人がいることを考慮すれば、その数はさらに多くなると思われる。
- ・ 雇用関連のKPIが無料相談件数となっているが、求職者が少ない中で、相談者は減っている。可能なら、紹介（マッチング）件数に変更してはどうか。

委員

- ・ 市だけではなかなか掴めないデータもあると思うので、関連データを活用しながら工夫してもらいたい。
- ・ 逆参勤交代についてはどうか。

事務局（政策監）

- かつて丸の内朝大学で、首都圏の若者が何度も富山市に来て、様々な提案を受け、市や地元企業と連携して実現に至った事業もある。様々なやり方があると思うので、逆参勤交代のトライアルについても富山市でできる事があれば研究していきたいと考えている。

委員

- ・ 自社の問題としてもあるが、来春採用する者が富山大学の学生で、県外出身者である。採用するのはいいが、住居手当の問題等、現実的な問題が中小企業にはある。補助制度等、市内に流入や定住を促す施策はないのか。

事務局（企画管理部）

- 現在実施している運転免許証の補助制度は、県外から市内に転入された大学1年生が対象で、住民票を移すことを要件としており、これは将来的に定住をしてもらうことを目的とした事業である。

(以上)